

読書をしてもらうには

宮城県仙台第三高等学校 普通科

要旨

学生に本を読ませるために、読書をしない原因について調査を行った。生活習慣、読書の有無、友人関係、休み時間の過ごし方などについて質問するアンケートを実施した。読書をする学生には3つの共通点があることがわかった。1つ目は、自分の時間があること。2つ目は、娯楽が本だけであること。3つ目は、勉強や部活動など、何かに追われていないことです。これらの共通点が正しいかどうか、実際に検証することにしました。しかし、ブックカフェのオーナーと相談しましたが、ブックカフェの売上が下がってしまうのではないかと懸念し、実施はできなかった。

1 背景と目的

読書を苦に感じている人が多いと感じ、実際に調べてみると、年齢が上がるほど読書をしなくなるというデータを発見した。そのため読書をしなくなる原因を突き止めてみんなに読書をしてもらい、より良い生活を送ってほしいと考えた。

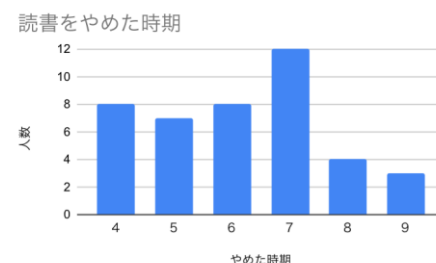
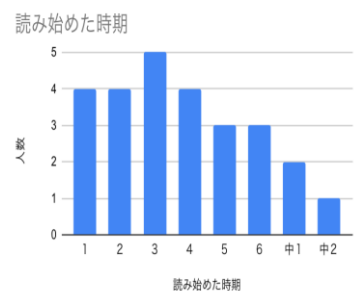
2 先行研究

読書をするメリットについての研究を調べた。一般的に言われているものとしては読解力や語彙力が上がるというものがある。その他には、イギリスのサセックス大学の研究によると6分間の読書はストレスを68%減少させる。これは音楽鑑賞、散歩、コーヒー、ゲームよりも効果的である。脳の扁桃体の活動が沈められることで鎮静効果が生まれるそうだ。また、ハーバード大学のキングワースとギルバートの研究によると目の前のことに集中することは人生の幸福度を上げる。これらのことを踏まえても、テレビやスマホで無駄な時間を過ごすのではなく、読書をして有意義な時間を過ごしてほしいと思う。

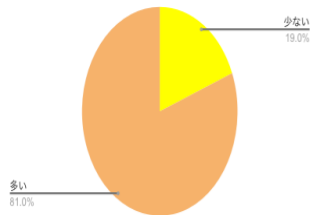
3 課題、調査の結果と考察

読書をしない原因を突き止めるという課題を設定し、私たちは調査を行った。調査方法は以下の通りである。まず、生徒に直接班員が「読書に関する変遷」、「読書をしていた場所と時間」、

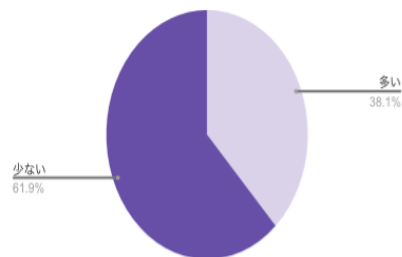
「その時の人間関係の状況」、「習い事や部活の状況」、「放課後何をしていたか」、「スマホ・ゲームの使用状況」などを聞き込んだ。その後、聞き込んだデータをもとに、「読書を始めた時期」、「読書をしなくなった時期」、「周りに人(友達等)がいたか」、「読書以外の娯楽があったか」、「しなければならないことはあったか」という要素に分類して結果をまとめた。(母集団の数は42人)



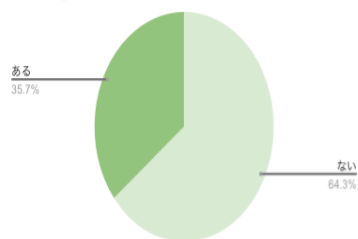
ひとりの時間（読書してる）



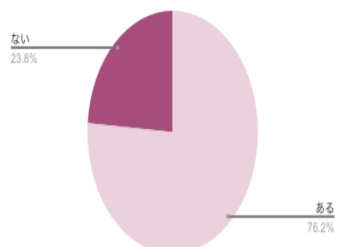
ひとりの時間（読書してない）



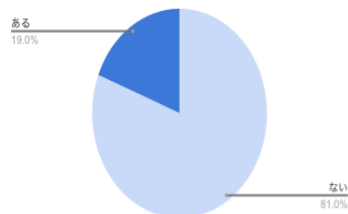
「娯楽」のカウント数（読書してる）



娯楽（読書してない）



have to do（読書してる）



have to do（読書してない）



上のグラフからわかるように、読書を始めた時

期は小学校低学年から中学年に集中している。また、読書をしなくなった時期は中学1年生に集中している。それぞれ理由を聞いてみると、小学校高学年になるとクラスで自主的に鬼ごっこ等をするようになったり、習い事をするようになったという声や中学に入ると勉強、部活が本格化したという声が目立った。読書を現在している人や読書をしていた時期があった人はその時期に関して、一人の時間が確保されていたという人は81.0%、スマホ・ゲーム等の娯楽がなかったという人が64.3%、すべきこと（勉強や部活など）がなかったという人は81.0%であった。一方、読書を現在していない人や読書をしていない時期があった人はその時期に関して、一人の時間が確保されていたという人は38.1%、スマホ・ゲーム等の娯楽がなかったという人が23.8%、すべきこと（勉強や部活など）がなかったという人は66.7%であった。年齢が上がるにつれて読書をしなくなる原因は年齢が上がるほど集団での活動が増えたり、スマホ・ゲーム等の娯楽デバイスが与えられたり、すべきことが増えるからだと推測できる。そして、読書をする条件として次の3つが考えられる。1つ目は一人の時間が十分に確保されていること。2つ目はスマホ・ゲームなどの読書以外の娯楽がないこと。3つ目は勉強や部活などのすべきことに追われていないこと。我々はこの3つの条件が満たされている環境を確保されていることが必要だと考えた。

3仮定

上記にある3つの条件を満たす環境を考えると、ブックカフェと図書館が候補に上がった。しかし、高校生は図書室や図書館で勉強している人が多く、条件の1つを満たさない可能性が危惧されたため、我々は「ブックカフェを利用すれば、3つの条件を満たし、読書をしてくれるのではないか」という仮定を立てた。

4実験

仮説を検証するために大阪府にある Click & Clack というブックカフェに協力を依頼した。我々の計画では、ブックカフェでのデバイスの操作や会話を制限して読書をしてもらうというものであった。しかし、何度かの協議の結果、検

証を行うことは厳しいという判断が下った。というのも、現在カフェ業界では Free Wifi を設けてお客さんがスマホやパソコンを使えるようにしたり、雑談目的のお客さんをターゲットにすることで利益を上げているからだ。協議の中では2時間に一回はコーヒーを250円でおかわりするようにはどうかなどの案が出たが、売上への影響の懸念より検証は断念された。

5 まとめ

以上の探究から、読書をしている人ほど、1人の時間が十分確保されている、読書以外の娯楽がない、何かすべきことに追われていないということを見ることができた。しかし、実際に検証はできなかったため、それらの条件が揃えば本当に効果があるのか、もっと別の条件があるのか、もしくは読書をしている人はこれらの条件を満たしているが、これら条件を満たしたからといって読書をするようになるわけではないのかということが未だ不明のままである。そのため、もし読書の探究をしたいという後輩がいれば私たちが集めたデータを提供し、探究を引き継ぎたいと思う。

参考文献

<https://www.jsla.or.jp/material/research/dokusyotyousa.html>

[https://www.smartschool.jp/contents/school-build-hint/index.php?det&id=lp-20230523194749&tag=松見敬彦#:~:text=それによると、最も多い,%にのぼりました%E3%80%82\)](https://www.smartschool.jp/contents/school-build-hint/index.php?det&id=lp-20230523194749&tag=松見敬彦#:~:text=それによると、最も多い,%にのぼりました%E3%80%82))

<https://keifukai.or.jp/soyokaze/blog/1509/#:~:text=イギリス・サセックス大学の研究,生まれるとのこと%E3%80%82>

<https://www.keieishaterrace.jp/article/detail/22183/>

abstract

We researched the cause of not reading to let students read books. We conducted a survey which asked about lifestyle habits, whether you read books, relationships with friends, the way you spend time at the break time. We cleared that readers have three things in common.

First, they have their own time. Second, they don't have entertainment but books. Third, they are not chased by anything such as study or club activities. We tried to test them to see if they are correct. We thought book cafes were the best way to meet the conditions . We discussed it with the owner of a book cafe in Osaka, but we could not implement it for fear that the sales of the book cafe would decline.